

## 私の世界平和に対する夢

産業開発青年隊同窓会 会長 鈴木 浩明

私と、若獅子神社とのかかわりは、産業開発青年隊の訓練科長を勤められた吉留 一利先生（故人）が、陸軍少年戦車兵学校の3期卒業生であり、戦後、建設省に入省され重機関係の技士をされて、建設省のモータープールで産業開発青年隊に建設機械の指導をされていました。昭和38年、富士宮市根原に建設省建設大学校中央訓練所が創設され、同年ブラジル移住班の実習先として、富士宮東高校のグラウンド造成工事が実施されました。この実習では、ブルドーザーによる押土を行っていましたが、傾斜地であり盛り土、切り土を行いながら、さらには地下水をどのような方法で対処していくかという、大変難しい現場実習となりました。そのため、陸軍少年戦車兵学校の卒業生であり、富士宮市の地理にも詳しく、ブルドーザーの技能や、重機土工の施工方法の管理においても優秀な知識を持つ吉留先生この工事実習を取りまとめるために白羽の矢が上がりました。移動の内示を受け、自宅に戻り、奥さんに、富士宮市への移動を話し、荷物をまとめ、その日のうちに富士宮市に向かわれたそうです。奥さんも、急な話でしたが後を追って富士宮市に向かわれたそうです。その後、若獅子神社が上井出に建立され、戦車兵学校の語り部として、また施設の管理をその命尽きるまで雨の日も、風の日も、雪の日も一日も欠かすことなく続けられました。建設省を退官するとき、ブラジルに移住された先輩方へ退官のご挨拶に行かれました。その時ちょうど私もブラジルでの実習中であり、吉留先生と行動を共にさせていただきました。そのようなことがあり、晩年、しきりに若獅子神社の維持についてわたくしに相談することが多くありました。そして富士宮市在住の青年隊同窓生の有志で草刈りなどのお手伝いをさせていただき、時間の都合がつく時には、例大祭などに参加をさせていただきました。このようなことがあり、わたくしと若獅子神社との縁が生まれたわけがあります。

いつも思うことですが、私たちが平和に生活できるのは、先の大戦で、亡くなった方々があり、また、生き永らえた方々が、必死になり日本の戦後復興のために努力されてきたからだと思います。ちょうどその時期に、同じく学徒出陣で、中国にわたり、一命をとりとめ、亡くなった方々に対して何をしなければならないのかを考え、建設省産業開発青年隊を立案されたのが長澤亮太先生でした。その理念は人類平和のため、不屈の信念のもと、産業開発に呈して理想の社会を建設するというものでした。そのため軍隊と同様の規律ある集団生活を通して、昼は働き、夜は学び、災害が発生すればいち早く駆け付け、迅速に復旧活動を行いました。その行動規範はまさしく戦車兵学校のものと同じであったと思います。そして、しかるべきして富士宮市に赴任されたのが吉留先生でした。今、世界を見渡せば、ウクライナとロシアとの戦争、中国とアメリカとの問題の中に、台湾問題があり、日本もいつその紛争の中に巻き込まれてもおかしくない状況になりつつあるのは、事実だと思います。日本は、唯一の被爆国であり、平和の大切さを世界に向けて、アピールしていく立場にあると思います。そこでわたくしの私見ではありますが、郷土史博物館を

若獅子神社内に建設したらいいのではないかと提言をいたします。反戦そして平和への祈りのシンボルとしてサイパンよりの帰還戦車があり、大戦時の多くの大切な資料も残されています。

戦争で亡くなられた方々は、日本の平和を信じ、日本の平和を望まれ、亡くなられました。また生きて帰られた方々も日本の復興のため、そして平和のため必死になり働き、今の日本を築いていただきました。また、中南米に生活の糧を求め移住された方々も数多くいらっしゃいます。その方々は、今もって日本への望郷の念をもって生きていられます。5年前、南米産業開発青年隊60周年記念大会がブラジル国パラナ州で開催され、その時に参加をさせていただきました。産業開発青年隊の先輩方は、ブラジルで成功された方も多くいらっしゃいます。ブラジル、パラグアイにまたがる巨大なイタイプーダム建設工事では、工期が遅れに遅れ、発電の予定期日に間に合わないかもしれないということが起こりました。そこに他のダム工事で実績を上げていた産業開発青年隊の七人の侍が急遽、イタイプーダムの現場に呼ばれて、工期に間に合うように施工管理を依頼されたそうです。そして予定期日に間に合うように、工期を短縮できる工法を用いて、日本人技術者の技術力の高さを知らしめたそうです。また、カフェ農園を経営されている先輩に、どこまでが先輩の農園ですかと聞くと、「地平線までだよ」といとも簡単に答えられました。また、ある先輩からは、「僕は戦災孤児で日本には身寄りが誰もいないんだよ。食べるために、夢をもって、ブラジルに来たんだよ。だけど、身寄りはなくとも、死ぬまでに今一度、日本に行きたいんだよ。これが今の本当の気持ちだよ」と、たどたどしくなりつつある日本語で、私に話されました。

ブラジルに移住された先輩方を、指導された吉留先生は、少年戦車兵学校時に受けた指導ををもち、平和の世界を築く人材育成のために隊員を指導されてきました。わたくしたち産業開発青年隊の中には、知らず知らずのうちに、少年戦車兵学校の教育が生きているのだと思います。

産業開発青年隊の創設は、青年団の自発的な活動から生まれたものであり、その根源は、山形県の農業産業開発青年団を設立された寒河江善秋先生、宮崎県の災害復旧及び、公共事業への青年の参加、そして、静岡県佐久間ダム建設に関する電源開発の補償業務として、現地の若者に対して最新式建設機械の技能取得に関する教育を実施する、などが中心な活動としてありました。その活動をみて、国策として建設省で産業開発青年隊を実施するように活動されたのが、長澤亮太先生です。富士宮市には、このように素晴らしい教育機関があったのです。

そして、富士宮市民としての誇りを持ち、富士山とともに、平和について発信していく砦が、若獅子神社だと思います。政教分離という厳しい問題はありますが、もし私は、若獅子神社にこのような趣旨を目指す郷土史博物館ができたならば、ブラジルに移住された先輩方の3世、4世の孫、ひ孫の皆様、素晴らしい富士宮市を紹介していき、おじいさんやひいおじいさんたちが学んだ、精神の基本はここにあるんだよと伝えたい。と考えま

す。これはあくまで、わたくし個人の私見であり、他にも様々なご意見もあると思いま  
す。

人は夢を持つと、その夢に向かい努力できるといいます。世界平和への情報発信のでき  
る、富士山郷土史博物館ができたらなんと素晴らしいことかと思えます。賛同していただ  
ける方が一人でもあれば、本当にうれしい限りです。世界平和についてのわたくしなりの  
夢を語らせていただきました。ありがとうございます。